

活動名	団体名	富海をホタルの里にする会
	地域	山口県防府市
	代表者	会長 平田 豊民
	支援金額	25万円
活動概要		
<p>5月21日に「第3回ホタルの夕べ」を開催した。約500人が参集し、大いに盛り上がりとともにホタルも例年以上に光って、ホタルウォッチングも楽しむことができた。</p> <p>マツダ財団のご支援により、飼育小屋の整備(新設)に取り組み、会員が基礎工事等の手伝いをして6月15日に完成し、飼育や観察が従前と比べ格段に効率的になった。</p> <p>6月初旬、メスホタルを捕獲し、採卵箱へ、その後、孵化用容器へ移した。また、餌用に粟粒大のカワニナを採取した。</p> <p>6月下旬から幼虫の飼育が始まり、小学生(3・4年生)が参加する「ホタルの楽校」を3回開催し、幼虫の観察やカワニナの選別作業等を行い、子ども達がこれまで以上にホタルと深く関わることになった。</p> <p>10月28日、新川へ幼虫約5,000匹を子ども達の手により放流した。</p> <p>◆実施時期 5月21日～10月28日 富海老人憩いの家、富海公民館、新川</p> <p>◆参加人数 ・ホタルの夕べ…500名 ・飼育設備の整備…延べ20名 ・メスホタル・カワニナ採取…延べ16名 ・ホタルの楽校…延べ50人 ・幼虫の放流…30人</p> <p style="text-align: right;">参加総人員 616名</p>		



「ホタルの夕べ」でジャグリングを見つめる子ども達



完成した幼虫飼育施設の前で記念撮影
(第1回ホタルの楽校)



幼虫の成長をルーペで観察(第2回ホタルの楽校)



幼虫約5,000匹を小学生(3・4年生)が放流

◆実施に伴う効果

- ・「ホタルの夕べ」については、三回目となるが、回を重ねるごとに参加者が増加しており、子どもから大人まで楽しめる「お祭り」として地域に定着しつつある。
(地域の人からも、今後も是非続けて欲しいとの声が強い。)
- ・ホタル幼虫飼育施設がマツダ財団のご支援による整備により、高さや広さが約2倍になり、古い設備も更新でき、飼育や観察の効率が格段に向上した。
↓
- ・利用しやすい施設になったことにより、子ども向けの活動を支援する市の助成金を得て小学校3・4年生を対象とした「ホタルの楽校」事業を開始し、孵化した直後の幼虫の観察や餌用カワニナの選別作業などを実施し、子ども達が、より深くホタルに関わることになった。

◆苦勞した点

- ・飼育施設の整備については、助成金が申請額の半額であったことから、十分な整備が可能かどうか心配であったが、会員の勤勞奉仕や工務店のご好意により、限られた予算の中で立派な新施設を建設することができた。
- ・「ホタルの夕べ」については、外部へのPRも進めており、地区外からの問合せもあった。参加者は、年々増加しており、今年は500人を越える人々が参集した。しかし、今後も開催を続けるためには予算的に相当きびしいと言わざるを得ない。そのため、会員から会費を徴収するとともに、当日、賛助会員も募集し、募金をお願いした。
- ・「ホタルの楽校」を3回実施したが、夏休み中に開催した2回目・3回目は、参加する子ども達の数が減ってしまったので、周知方法等を含め改善する必要がある。

◆今後の課題・発展の方向性

- ・「ホタルの夕べ」を是非とも続けて欲しいという多くの人から予想以上の浄財が集まったものの将来的に資金が不足するのは間違いなく、今後、何らかの策が必要となると思われる。
- ・今年、新幼虫飼育施設で順調に生育し、約5,000匹の幼虫を新川に放流することができた。今年も新川へ放流するとともに、以前に比べホタルの数が減っている鮎子川への放流に本格的に取り組む必要があると考えている。
- ・富海地区の国道2号4車線化事業が開始され、説明会で工事区間の新川を付け替えることになるとの事業説明があった。現在、ホタルが多数発生する場所であり、ホタルの生息に影響が生じないような施工を国土交通省へ強く要請する必要がある。

◆活動を終えての感想・意見等

今回、マツダ財団のご支援を受け、念願であったホタル飼育施設の整備ができ、心から感謝申し上げます。これまでの施設と比べ、飼育や観察の効率が格段に向上し、子ども達がホタルとより深く関わるができることになりました。

これを契機に、今後、「富海をホタルの里にする会」の活動をさらに推進し、「ホタルの夕べ」「ホタルの楽校」の開催や幼虫の飼育・放流事業等を通じ、富海地域全体の活性化にも繋げていきたいと考えています。